

学位研究 第1号 平成5年3月 (論文)
〔学位授与機構研究紀要〕

アメリカにおける学位と専攻分野の関係について

Degrees and Fields of Subject Matter in American
Higher Education

館 昭

Akira TACHI

アメリカにおける学位と専攻分野の関係について

館 昭*

はじめに

平成3年の制度改革によって、従来は称号とされていた学士が、博士と修士に加えて、学位として位置づけられ、従来は専攻分野を限定して定められていた博士、修士、学士の種類を廃止し、単に「博士」、「修士」、「学士」とし、専攻分野の名称はそれに付記されるものとなった。また、学位としてではないが、短期大学及び高等専門学校卒業者は準学士と称することができることとなった。

これらの一連の改革は、もちろん日本の高等教育における学位をめぐる状況から生まれたものである。しかし、諸外国の学位との関連付けも課題であったことは、この改革の基礎となった大学審議会答申「学位制度の見直し及び大学院の評価について」（平成3年2月8日）の中に「国際化の進展、留学生の積極的受け入れ等に伴い、改めて課程制大学院制度の基礎理念に沿って学位授与状況を改善することが各方面から強く求められている」（高等教育研究会、1991年、43頁）との指摘があり、また同会答申「学位授与機関の創設について」（平成3年2月8日）では「現行制度においては、大学卒業者の称号として位置付けられている学士について、諸外国と同様に学位と位置付けることを前提に検討を行った。」（高等教育研究会、1991年、52頁）という記述があることから明らかであろう。そして、そこで「諸外国」として念頭にあったのは、主としてアメリカの学位制度であったと想像される。なぜなら、課程制大学院が充実しているのはアメリカであり、学士が学位の位置づけを得ているのは外国一般ではなく英米系の制度だけだからであるからである。

さて、今回の改革が、アメリカの学位制度を念頭においたものだとすると、日本の学位制度はアメリカの学位制度とどの程度類似したものになったのだろうか。確かに、アメリカの学位と日本の学位とでは、バチェラー、マスター、ドクターがそれぞれ学士、修士、博士に該当するなど、レベル設定の面では類似性が高い。しかし、バチェラー・オブ・アーツを文学士（学士（文学））と訳せないし、バチェラー・オブ・サイエンスは理学士（学士（理学））には該当しないなど、学位と専攻分野との関連付けについては、日米の間の隔たりは大きい。また専攻分野からみると、専門職学位課程の基準認定制度というアメリカ特有の制度が浮かび上がってくる。

そこで本稿では、アメリカにおける学位と専攻分野の関係について、学位の名称と基準認定制度の面からの概観を試みることにした。

*学位授与機構審査研究部教授

1. アメリカの学位の専攻分野名称

(1) B.A./B.S.と専攻分野

アメリカの学位と日本の学位の専攻分野の表記には、相当の隔たりがある。この原因は、日米の大学が形成されてきた歴史的な違いに負うところが多い。

しかし、この事実は一般にはあまり知られていない。英和辞典を引くと、バチェラー・オブ・アーツ (Bachelor of Arts, B.A.) とバチェラー・オブ・サイエンス (Bachelor of Science, B.S.) には、それぞれ文学士、理学士という訳がつけられているのが普通だが、これはほとんど誤訳にとっても良いぐらい違っている。日本では、数学や化学の専攻者に文学士を、経営学や家政学の専攻者に理学士を与えたりしないからである。

以下に示すのは、カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校 (CSU-LA) の専攻と授与学士号の対応である。(CSU-LA, 1983, pp. 80-82) この大学はカリフォルニア州立大学 (CSU, UC と略記されるバークレー等の属するカリフォルニア大学とは別) 19校のうちの一つで、創立は1947年、経営・経済、教育、工学、芸術、文理の5学部を持ち、学生数約22,000人 (内大学院生が3分の1) という、規模や歴史等の点から、アメリカの典型的な州立大学と言ってよいものである。

○B.A.

アフリカ系アメリカ人研究, アメリカ研究, 人類学, 美術, 化学, 子供発達, 経済学, 英語, フランス語, 地理学, 地質学, 健康安全研究, 歴史, 家政学, 産業美術, 日本語, ジャーナリズム, ラテンアメリカ研究, 教養, 数学 (純粋), メキシコ系アメリカ人研究, 微生物学, 音楽, 哲学, 体育, 物理学, 政治学, 心理学, 放送, 社会科学, 社会福祉, 社会学, スペイン語, 言語学, 言語障害学, 演劇, 都市研究

○B.S.

生化学, 生物学, 企業経営, 商業教育, 化学, コンピュータ科学, 刑事司法, 工学, 消防, 地質学, 家政学, 産業技術, 経営科学, 数学 (応用), 医療技術, 看護学, 物理学, リクリエーション, リハビリテーション

○バチェラー・オブ・ミュージック (Bachelor of Music)

音楽 (演奏, 歌唱)

○バチェラー・オブ・ヴォケイショナル・エデュケーション (Bachelor of Vocational Education)

職業技術

これにみるように、もしB.A.が文学士なら、化学、経済学、地質学、家政学、数学、微生物学、物理学といった専攻がB.A.とされることにはどうしても違和感がある。また、B.S.が理学士ならば、企業経営、商業教育、刑事司法、工学、消防、家政学、産業技術、経営科学、医療技術、看護学、リクリエーション、リハビリテーションという具合に、ほとんどがそぐわないものになってしまう。

しかし、このなんと日本人は理解しかねる分類も、B.A.とB.S.の歴史をみると納得できるものになる。まず、B.A.だが、この学位は中世以来、リベラルアーツ (liberal arts, 自由学芸) の修得者に授けられた。このアーツは言うまでもなく、三学四科つまり文法、修辞、論理学と算術、音楽、幾何、天文学から構成されていた。アメリカ最古の大学であるハーバード大学のB.A.カリキュラムはその流れを汲むので、文法、論理、修辞、算術、幾何、天文学、自然学、歴史、倫理学、政治学、ギリシャ語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、教理問答などからなっていた (Levine, 1978, pp.538-542)。つまりアーツはもともと、今日的な言い方で言えば人文学的なものだけではなく、社会科学や自然科学的なものも含んだ概念だったのである。もちろん中世やハーバード創設当時には、学生はこれらに科目を万遍なく学んだのだが、今日ではいわゆる一般教育として広く学ぶほかに、特定の科目を専攻して深く学ばなければならない。したがって、専攻が人文、社会、自然科学の分野のものならば、それはアーツ分類され、学士号はB.A.となって当然なのである。(Eells, 1963, p.86)

これで一応、社会科学や自然科学分野の専攻がアーツに分類される説明はついたとして、日本人の目から見れば当然自然科学分野の学位と思われるバチェラー・オブ・サイエンス (B.S.) の専攻分野が全く様相をことにしているのはなぜだろうか。それはこの学位の一つの、そして主流となった起源が、一九世紀に発生した総合技術大学にあるからである。この種の大学の起源は、フランス革命後、中世以来の社会から遊離した学問に見切りをつけて出発したフランスの総合技術大学 (エコール・ポリ・テクニク) にある。アメリカで最初に創られた総合技術大学であるレンセラー総合工科大学 (RPI) やその種の大学の代表格ともいべきマサチューセッツ工科大学 (MIT) は、その名称にインスティテュートを用い、中世の組織であるユニバーシティもカレッジも使っていないことが示すように、フランスのエコールの直系であった。これらの大学は、学問を生かし、社会へ応用できる人物の育成を目的としており、その証明がB.S.の学位だったのである。そしてその生かされるべき学問は自然科学に限られない。従って、工学は当然のこととして、家政学や企業経営などの専攻者にもB.S.学位が授けられるようになった。(Eells, 1963, pp.86-87)

そうした起源を持つ故に、B.S.は一般に純粋科学ではなく、応用科学の分野で誇りをもって使用される。上記のCSU-LA校の例の中で、例えば化学や数学がB.A.にもB.S.にも分類されているが、これはどちらでもという意味ではなく、純粋化学や純粋数学の専攻者には前者、応用化学や応用数学の専攻者には後者が授けられるのである。

では、上記の例にある、バチェラー・オブ・ミュージック、バチェラー・オブ・ヴォケイショナル・エデュケーションといった表記の学位はどういうものなのか。この種の学位は、一般に学問的な内容よりも、技術、技能の修得に力点を置いた分野の専攻者に与えられる。上記の例では、音楽理論を学んだ者にはB.A.が、演奏や歌唱を学んだ者にはバチェラー・オブ・ミュージックが授与されるわけである。

念のため他の大学の例も見ておこう。まずハーバード大学では、学部課程の専攻は40 (アフリカ系アメリカ人研究、人類学、応用数学、天文学・天体物理学、生物化学、生物学、化学、化学・物理、古典、コンピュータ科学、東アジア語・文明、東アジア研究、経済学、エンジニアリング・サ

イェンス、英語・アメリカ文学、美術、民族学・神話学、地質学、ドイツ語・文学、政治学、歴史学、歴史・文学、科学史、言語学、文学、数学、音楽、近東語・文明、哲学、体育、物理学、心理学・社会関係、比較宗教学、ラテン系言語・文学、サンスクリット語・インド研究、スラブ語・文学、社会研究、社会学、特別専攻、統計学、視覚・環境研究)があるが、授与される学位はすべて Bachelor of Arts (A.B.) である。ただし、エンジニアリング・サイエンスでは Bachelor of Arts in Engineering Sciences の形で出され、また Bachelor of Science の場合もあることになっているが、(Harvard, 1985, pp. 40-41) 少なくとも1982—83年に授与された学士号1,630件はすべて Bachelor of Arts であった。(Harvard, 1984, p. 29)

最後に例として示すのは、全米の州立大学の代表格であるカリフォルニア大学バークレー校の学士号と専攻の関係である。(Berkeley, 1991, p. 31)

○A.B.

アフリカ系アメリカ人研究、古代近東考古学・芸術史、人類学、建築学、芸術(歴史)、芸術(実技)、アジア研究、アジア系アメリカ人研究、天文学、化学(文理学部)、メキシコ系アメリカ人研究、古代文明、比較文学、コンピュータ科学(文理学部)、発達研究、演劇、演劇(ダンス)、オランダ研究、地球科学、経済学、英語、環境科学、民族研究、映画、フランス語、地理学、地質学、地球物理学、ドイツ語、ギリシャ語、歴史学、人文学、総合生物学、イタリア語、ラテン語、ラテンアメリカ研究、法学、言語学、マスコミ、数学、応用数学、中東研究、分子・細胞生物学、音楽、先住アメリカ人研究、近東研究、東洋語、平和・紛争研究、哲学、体育、物理学、植物学、産業社会の政治、経済、政治学、心理学、宗教学、修辞学、スカンジナビア語、スラブ語・文学、社会科学、社会福祉、社会学、南・東南アジア研究、スペイン語、統計学、女性学

○B.S.

生物工学、生物資源科学、企業経営、化学工学、化学(化学学部)、土木工学、コンピュータ科学(工学部)、環境保護・資源研究、電子工学・コンピュータ科学、工学(7専攻複合)、地球工学、工業数学・統計、物理工学、昆虫学、林産学、林学、産業工学、OR、景観建築学、製造工学、物質科学・工学、機械工学、金属工学、造船学、核工学、栄養学・臨床食餌療法、栄養学・食物科学、石油工学、植物学、天然資源の政治経済、土壌環境学、視覚科学

この様にどの大学でも、応用数学などの一部の境界的な専攻を除き、専攻と学位の名称区分は一貫しており、上記の説明が大旨当てはまる。

なお、ハーバードやバークレーでは、バチェラー・オブ・アーツの略号をA.B.としているが、これはラテン語の *Artium Baccalaureus* から来ているものである。この略号の表記について、イールズは次のように説明している。「現在の学位名称に見られる変則的な表記は、学術言語の変化に原因がある。今やほとんどすべての学位が英語記述であるが、いくつかの略号はラテン語版のものがよく使われている。アメリカで最も古い学位である Bachelor of Arts は、B.A.と略記される場合が多いが、長い間ラテン語式のA.B.と記述されてきた。これに対して、より新しい学位で

ある Bachelor of Science の場合はほとんどすべての B.S. と記述され、S.B. を用いる大学はまれである。」(Elles, 1963, p. 5)

しかし有力大学でも、これらの傾向に反する場合がある。例えばマサチューセッツ工科大学 (MIT) の場合、その専攻分野は建築・環境計画、経営、コンピュータ科学、工学、生命科学、物理科学、人文学、社会科学にわたっているが、授与する学士号はすべて Bachelor of Science (S.B.) である。(College Board, 1993, p. 748)

(2) Ph.H. と専攻分野

修士の学位である Master of Arts (M.A.) や Master of Science (M.S.) と専攻との関係については、学士とはほぼ同様の傾向があると考えて良いが、経営学では Master of Business Administration (M.B.A.) が主流であるなど、専門職とのからみで検討すべき点が残っている。それについては、今後の課題として、ここではドクター・オブ・フィロソフィー (Doctor of Philosophy, Ph.D.) について考えたい。

まず Ph.D. を哲学博士と直訳してもほとんど意味をなさない。学術博士という訳は意識としては当たっているがその場合も、それを学際分野の博士号だと考えているとしたらあきらかな間違いである。これについて最近の辞書はかなり考えた訳をつけている。例えば研究社の『リーダーズ英和辞典』(1984年) は Ph.D. を「博士号 [大学院で与える、法学・医学・神学を除く学問の最高学位]」と解説しているからである。しかし、これも正確な解説とは言えない。法学、医学、神学以外でも、技術、技能系の分野では Ph.D. は出さないし、はっきりと専門職の学位とし出す博士は Ph.D. ではない。また、確かに今日でも法学、神学の専門職分野では、それぞれ J.D., M.Div. の上に、法科学博士 (J.S.D.), 聖職博士 (D.Mn.) などを出し、Ph.D. にはあまり縁がないが、医学の分野では M.D. の後に、あるいは合わせて Ph.D. を与える例が多いからである。

この Ph.D. のフィロソフィー (哲学) という概念が覆う分野についても、歴史があらましを教えてください。まず、歴史的には、Ph.D. のフィロソフィーと B.A. のアーツは、まったく同じものである。なぜなら Ph.D. は、中世の自由学芸 (アーツ) 学部 (ドイツでは哲学部と言った。) が成長し、医、法、神の専門職学部と同等の地位に立ったことの象徴として出すようになった学位だからである。これをもって近代大学の成立という言い方をする。だから、アーツに数えられる人文学、社会科学、自然科学の分野の専攻者の博士としては、すべて Ph.D. が授与される。

しかし、Ph.D. が、アーツの領域に留まらなかったのは、この領域の専門性が医、法、神のように実務にあるのではなく研究にあり、これが研究者の学位を意味したからである。大学院評議会 (CGS) の説明書はこの学位を以下のように定義している。「ドクター・オブ・フィロソフィーは北米の大学で授与される最高学位である。それは基礎研究分野の研究学位 (research degree) であり、M.D. や J.D. または Ed.D. のような専門職教育あるいは応用研究に重点を置いた学位と区別される。」(Council of Graduate Schools, 1990, p. 1) この定義からわかるように博士レベルの Ph.D. は、学士レベルの B.A. のアーツの諸分野だけでなく、B.S. のサイエンスの分野、また医学の分野でも、研究者の学位として多用される。例えば工学分野では、一般に工学博士 (D.E.) は上級の

専門職の学位で、Ph.D.は工学分野の研究者の学位と考えられている。

スパーはこれについて、Ph.D.以外の博士号の効用を唱える立場からであるが、以下のように説明している。「工学はPh.D.が高い威信を持つ自由学芸と科学に関連した専門職の好例である。Doctor of Engineeringを授与しているのは、ほんの少数である。……カリフォルニア大学パークレー校では、2つの学位が選択できるが、たった10%しかDoctor of Engineeringを選んでいない。」(Spurr, 1970, p. 151)

(3) 第一専門職学位

日本人の目からみると、理解しにくいのが第一専門職学位という概念である。アメリカの教育統計をみると、学位(degrees)は、準学士、学士、修士、第一専門職、博士の五つに分類されている(それぞれ associate, bachelor's, master's, first-professional, doctoral)。1989年度には、準学士45万4679、学士104万9657、修士32万3844、第一専門職7万980、博士3万8238の学位が授与されている。

第一専門職学位について、連邦教育省教育統計センター(NCES)では『教育統計要覧』で以下のように定義している。「所定の専門職につくための学習要件の修了と、学士号に通常要求される以上の専門技能水準の両方を意味する学位。この学位は、通常は少なくとも2学年分の大学レベルの準備学習と、準備学習と専門の課程を合わせて少なくとも6学年分の学習を修了要件とする教育課程を基礎に与えられる。」(NCES, 1991, p. 458)

定義は続けている。「NCESの定義によれば、第一専門職学位は歯科学(D.D.S.またはD.M.D.)、医学(M.D.)、検眼(O.D.)、整骨治療医学(D.O.)、薬学(D.Pharm.)、足病医学(D.P.M.)、獣医学(D.V.M.)、脊椎矯正(D.C.またはD.C.M.)、法学(J.D.)、神職(M.Div.またはM.H.L.)の分野で授与される。」(統計表の中では、「足病医学」の項は「足病学(Pod.D.またはD.P.)」または「足病医学(D.P.M.)」、「法学」は、「法学・一般(LL.B.またはJ.D.)」、「神職」が「神職・一般(B.D., M.Div., M.H.L.)」と、該当学位名が多くなっている。また、該当件数は少ないが「その他」の項がある。)

この様に、全部で10の専門職分野が示されているが、初めの7つは医学系であるから、大きくくりでは医学系と法学と神学の3分野ということになる。

そうすると、これは中世の大学における専門学が神、法、医学しかなかったことに対応していることになる。いうまでもなく、中世の大学は学芸学部(哲学部)で学士号をとった学生を入学させ、上記3分野の専門職者を養成した。アメリカの学位は、この中世大学の姿をとどめているのであろうか。

第一専門職学位は学部レベルと合わせて6年以上という定義から、修士レベルと考えたくなるが、アメリカの修士課程は学卒後一年以上のコースで、学部からに通算年限は5年以上のレベルとされる。ちなみに博士課程は学卒後3年以上、通算7年以上のレベルであるから、通算6年以上の第一専門職学位は、分類では修士と博士の間に項立てされる。実は『教育統計要覧』では、こうははっきり説明されていないのだが、アメリカでは神、法、医を特別視しているというより、そう考

えるのが妥当であろう。

ここで確認しておかなければならないのは、アメリカで第一専門職学位とされるものは、なにも医、法、神の3分野の学位だけではない点である。「第一専門職学位」の「第一」は、上記のN C E S定義の前段の「所定の専門職につくための学習要件の修了」の部分を意味し、分野によって、それが学士レベル、修士レベル、博士レベルに設定されている。これらの学位は、連邦教育省の統計ではそれぞれ学士、修士、博士の項に載せられることになる。ちなみに、準学士レベルの場合は、一般に専門職という概念は使わず、半専門職、技能職あるいは職業（それぞれ、semiprofessional, technical, vocational）等の概念が用いられる。

多くの分野で、第一につづく、第二、完成 (terminal), あるいはそうしたランク付けのない専門職学位が出されている。しかし、通常第一学位が他のレベルの学位で置き換えられることはない。つまり、第一学位なしには第二学位が取れないか、第一学位だけが州の免許試験の受験資格になっている。例えば、法学分野では法学博士 (J.D.) の他に法学修士 (L.L.M.), 法科学博士 (D.J.S.) などがあるが、第一学位の J.D. 取得者のみが、州試験合格後に実務の免許を受けることができる。第一学位は「所定の専門職につくため」にはどうしても必要な学位なのである。また、専門職基準認定は多くの場合、この第一専門職レベルについてのみ行われる。

実は、医、法、神の分野だけが当てはまることになる現行の分類が定着したのは、1965年度の統計からであり、1960年度から1964年度の4年間は、第一専門職学位の項には、「修業年限五年以上の第一専門職学位及び第一専門職学位とみなされる修士学位」が掲げられ、後者の例としては図書館科学、社会福祉、公経営があげられていた。そして、1960年度以前は、第一専門職学位は、学士の項に含められていたのである。

2. 学位と基準認定

(1) 学位の社会的通用力

アメリカでは実に様々な学位が存在する。まず、学業達成の証明として与えられる (earned) 学位と名誉 (honorary) 学位に分類される。ここでは、前者の学位を問題にしているが、その学位も学問的 (academic) 学位と専門職 (professional) 学位に分けられる。ただ、この境界はしばしば曖昧であり、専門職志向 (professionally oriented) という概念が登場したりする。また、もともと専門職とは学問を踏まえた職業実践のことであるから、専門職課程の大学、学部から学問的学位が出されて何の不思議もない。医学部（形式的には大学が与えるが）は専門職学位として医学博士 (M.D.) を出すが、研究者の学位としての哲学博士 (Ph.D.) も授与するわけである。

さて、そもそもアメリカでは何が本当の学位か、正確にいうと、何が社会的に通用する学位かという問題があるのである。日本では学校教育法にもとづいて設置された大学だけが大学で、その大学が学位規則にもとづいて出した学位が正規の学位だということになる。しかし、アメリカでは設置認可の権限をもつ州の基準は一般にそう高いものではない。大学と一般の企業の設立認可との間に区別がない州もある。認可しても、こういう学位を出してはいけないとかいう制限を加える場合はまずない。極端な言い方をすれば、アメリカでは誰もが大学を名乗り、学位を出すことができる

と言ってよい状態にある。

そこで、アメリカの学位を判断するには、それが基準認定を受けた大学の学位かということが重要になる。アメリカでは大学が連合して、一定の基準を設定し、その基準に合格した大学だけを対等の仲間と認めている。こうした大学の連合体は、地域ア krediteーション団体と呼ばれ、ニューイングランド、ミッドルステーツ、北中部、南部、北西部、西部の6つがあり、この内ニューイングランド、南部、西部では大学と短大・職業教育の認定組織を分けている。ところで、この基準認定も民間の任意団体の仕事で、その設立も基本的には自由だから、基準認定団体の評価も必要になる。

アメリカには基準認定団体を認定する中等後ア krediteーション評議会 (COPA) という団体がある。そこで、とりあえず、この COPA が地域ア krediteーション協会として認定している団体が大学レベルとし認定している大学が、日本の大学に当ると考えることができる。しかし、これらの出す大学の学位が、日本的な意味で学位がというとはそうではない。地域団体のア krediteーションを受けた大学の学位でも、社会的な通用力に差異が生じる場合があるのである。その差異は有名大学の学位だとか二流、三流の大学の学位だとかいう心理的なものではない。それは地域ア krediteーションが別名を機関ア krediteーションともいい、大学全体の高等教育機関としての適格性を判断するもので、個々の課程の善し悪しを判断するものではないことから起こってくる。

ここでは、最初に挙げた学位の種類が学問的学位か専門職学位かが問題となる。簡単な例え、学問的学位の場合、少なくとも形式的な差はないのだが、専門職学位の場合はある。専門職の場合、その学位を出した課程が、専門職ア krediteーションを受けた課程かどうかで、その専門職分野での扱い、社会的資格の意味が変わってくるからである。

ここでもまた、いろいろな専門職基準認定団体が存在するから、COPA が専門職基準認定団体として認定した団体の基準認定を受けた課程が出す学位が、社会的通用力の高い、狭い意味での専門職学位ということになる。COPA では、これらの団体を専門ア krediteーション団体というカテゴリーでくくっているが、それには医療関連、建築、美術・デザイン、企業経営、脊椎矯正 (カイロプラクティック)、建設、歯学・歯科補助、食餌療法学、工学、林学、医療サービス経営、家政学、室内装飾、ジャーナリズム、景観建築、法学、図書館学、医療補助・検査技師、医学、音楽、看護麻酔、看護、検眼、整骨治療医学、薬学、物理療法、足病学、心理学、公衆衛生、ユダヤ律法学、リハビリテーション、ソーシャルワーク、言語・聴力治療、教員養成、獣医学の35分野がある。

なお、神職の基準認定協会である合衆国カナダ神学大学協会は、COPA の分類では専門職基準認定団体ではなく、全国機関基準認定団体に分類されている。また化学の分野の認定協会はCOPA に加盟していない。

(2) 医、法、神分野の学位

それでは、専門職分野の学位について、分野ごとにみてみたい。ここでの制度的説明は、アメリカ教育協会 (ACE) の『アメリカの大学』13版 (ACE, 1987, pp. 41-106)、統計数値について

は連邦教育統計局の『教育統計要覧』(NCES, 1991)によっている。

まず法学であるが、この分野ではアメリカ法曹協会(ABA)が1921年に本格的なアクレディテーションを開始して以来、大部分の州でABA認定課程の修了者のみに法曹試験の受験資格を認めている。

この第一専門職の課程は3年で、大部分の大学では学士の学位を入学要件としているので、通常7年の学習が必要となる。ただ、学部3年の学習で入学を認める大学がある。学部で法学準備教育を要求している大学はほとんどないが、大部分が入学選抜に法学適性試験(LSAT)の受験を課している。

かつては、ほとんどの大学でこの課程の修了者には法学士(LL.B.)の学位を与え、特別優秀者にのみ法学博士(J.D.またはL.L.D.)を授けた。しかし、現在ではすべての大学で第一専門職学位として法学博士が授与されている。年間の授与数は1989年度で36,437と、全第一専門職学位の51%を占めている。

おもしろいことに、さらに上級の学習をした場合の学位に法学修士(LL.M.)がある。この辺に、起源の上では博士と修士には上下関係はなかったといわれる(Eells, 1963, p. 3)証拠が残っているような気がする。法学研究者の学位として、法科学博士(S.J.D.)の学位も用意されている。しかし、これらの学位は上級のものではあっても、第一専門職学位の代わりにはならない。

ABA認定課程の卒業者は、全州で法曹試験の受験の受験資格を持つ。ABAの認定を受けず州の認可を受けただけの大学もあるが、この場合、受験できるのはその州の試験に限られる。

なお、大学側が主体になったアメリカ法科大学協会(AALS)という基準認定協会もあり、ABAとは違う独自の基準で認定を行っている。ABA認定校175校に対して、AALS認定校は151校(1986年)で、ABA認定でもAALS認定校でないものがある。また、ABAの認定校でも、地域アクレディテーションを受けていないものも相当数ある。これらは法科のみの大学で、地域アクレディテーションに通らなかったというより、それを必要としないわけである。

次に第一専門職学位の40%を占める医学系の分野であるが、そこには日本の大学に対応分野のある医学、歯科学、薬学、獣医学のほかに、検眼術、整骨治療医学、足病学、脊椎矯正法が専門職分野として存在している。1989年度での授与件数の多い順に並べてみると、医学1万5115(21%)、歯科学4093(6%)、脊椎矯正法2581(4%)、獣医学2160(3%)、整骨治療医学1561(2%)、薬学1191(2%)、検眼術1072(2%)、足病医学675(1%)となる。()内は第一専門職内に占める比率)

医学の分野では、1942年以来、医学教育連携委員会(LCME)が医学博士(M.D.)課程の基準認定を行っている。医学の基準認定は法学とともに古く、歴史は19世紀末に遡るが、そこではアメリカ法科大学協会とアメリカ医学協会がそれぞれに実施していた。LCMEはその両者が共同して設立したもので、全州の医師免許委員会の公認となっている。1986年現在の認定校数は143である。

この第一専門職の課程は4年であり、大部分の大学は学部3年間の学習を入学要件としているので、通算7年間の学習が必要となる。ただし、過半数の学生が、4年間の学習後に学士号を取って入学してくる。学部での専攻に制限はなく、ただ高いレベルの数学、化学、生物学、物理学の学力、

言語能力、人文学、社会科学の基礎の取得が要求される。また、ほとんどすべての大学で、医学適性試験 (MCAT) の受験を課している。

大学の中には、学部段階の教育と専門教育を合わせ行いものもあり、1984年度で18校を数えた。かつては3年課程の大学もあったが、現在では続いていない。しかし、いろいろな学習促進の手段があり、1985年度で95大学で、学生に医学博士 (M.D.) と合わせて医学分野での学術博士 (Ph.D.) 取得の機会を与え、3大学では法学博士 (J.D.) を合わせて取得する機会を与えている。

医学の場合も、地域基準認定は専門職認定の条件ではないため、少数だが地域基準認定を受けていない専門基準認定校が存在する。

歯学の場合は、第一専門職学位のための基準認定は、1938年からアメリカ歯科協会 (ADA) によって行われている。1986年現在の認定校は59校である。専門職課程は4年で、入学要件は通常学部2年以上となっており、通算6年以上の学習が必要になる。全部の大学で、歯学適性試験 (DAT) の受験を要求している。

課程の修了者には歯科外科博士 (D.D.S.)、歯科内科博士 (D.M.D.) の学位が授与される。卒業者が業に就くには、筆記及び臨床の2つの試験に合格しなければならない。筆記試験はデラウェアを除く全州の要件を満たす全米合同歯科試験委員会の試験がある。臨床試験は、各州が全米に4つある地域試験委員会のどれかに加盟しているため、合格者は地域内では再試験無しに移動ができる。

歯学の場合は、地域基準認定を専門職基準認定の前提条件にしているため、認定校が地域基準認定校ではないという例はない。また、この協会は歯科技師等 (specialty) の歯科補助職養成の課程の基準認定も行っており、これらの課程修了者には修了証明 (certificates, diplomas)、準学士、学士が授与される。

薬学の場合は、アメリカ薬学評議会 (ACEP) が第一専門職学位の基準認定に当たっている。ACEP は1932年に、アメリカ薬科大学協会、アメリカ薬学協会、全米薬事委員会協会が共同して設立したものである。

薬学の第一専門職学位は2つのレベルで設定されている。一つは薬学士 (B.Pharm.) への課程で5年の学習コース、もう一つは薬学博士 (D.Pharm.) への課程で6年、あるいはそれ以上の年数を要するコースである。このどちらを取得しても、州試験の受験が可能である。ちなみに、1988年度の授与数は薬学博士1074に対し薬学士5486と学士の方が多い。

地域基準認定は専門職基準認定の必要条件ではないが、要望事項にはなっており、地域基準認定を受けていた取り消された場合などは再評価の対象となる。1986年度の基準認定校は72校である。

獣医学の基準認定は1932年から、アメリカ獣医協会 (AVMA) によって実施されている。専門職課程は4年で、入学者は2年以上の学部教育を要求される。第一専門職学位は獣医学博士 (D.V.M.またはV.M.D.) で、これらの保持者は全州で州試験の受験資格を得られる。

1986年度の認定校は30校である。地域基準認定を受けていることが、専門職基準認定の前提条件である。

次に、その他の医学系の第一専門職学位について、基準認定団体の名称、課程の年限、入学に要

する学部レベルの学習，1986年度現在の認定校数，（特記事項）の順に記す。〔検眼〕アメリカ検眼協会検眼教育評議会，4年，2年，18校，（技師課程（準学士）の認定も行う。）〔整骨治療医学〕アメリカ整骨治療協会専門職教育局，4年，3年，15校（志願者はMCATの受験を要す。）〔足病学〕アメリカ足病医学協会足病医学教育評議会，4年，（不詳），6校。〔脊椎矯正〕脊椎矯正教育評議会，4年，2年，12校。

最後に神職分野をみてみると，ここでは合衆国カナダ神学大学協会が第一専門職学位に関する基準認定に関与している。この団体は，COPAでは全国機関基準認定協会に分類される。

大部分の大学は学士または相当の学習を入学要件としている。1966年に，同協会は第一専門職学位をそれまでの神学士（B.D.）から，神学修士（M.Div.）に変えた。大学によっては，第二専門職学位の課程を持つところもあり，聖職博士（D.Mn.）が授与される。

他に専門職志向の学芸修士（宗教教育）（M.A. in religious education）や宣教学博士などの課程がある。また，多くの大学で，学芸修士，学芸修士（宗教学），神学研究修士等の修士号，神学理論博士，哲学博士等の研究志向の博士号を出している。1986年度現在の認定校は176校（内19校はカナダ）である。神職系には，この他にユダヤ律法学大学協会があり，1986年度現在で合衆国とカナダを合わせて59校の認定校がある。

（3） 医，法，神以外の専門職学位

医，法，神以外の分野で専門職基準認定を行っているCOPA認定団体の分野には，工学系の工学，建築，建設，景観建築，室内装飾，芸術系の美術・デザイン，音楽があり，その他に企業経営，ジャーナリズム，教員養成，図書館学，心理学，ソーシャルワーク，家政学，林学がある。

工学の場合，工学技術基準認定協会（ABET）が第一専門職課程の基準認定団体である。第一専門職課程は学士課程でも，修士課程でもよく，大学の方でどちらかが第一専門職課程に当たるのかを決めて申請を行うことになっている。1985年度現在で，1296の学士レベルの認定課程，40の修士レベルの認定課程を持つ。この協会では準学士レベルの工学技術課程の認定も行っており，757課程が認定されている。

学士課程は通常4年であるが，前期2年は基礎科学，人文学，社会科学を，後期2年で上級の科学と専門化した工学を学ぶ。多くの学生は負担過剰な単位の取り方をするか，夏学期にも勉強しなければ，4年間では卒業できない。学士課程を5年制としている大学も少数ある。また，3年間を学芸学部で学び，2年間を工学部で学び，両者の学部から学士を取得できるようにしている大学もある。

技師（Engineer）の身分を得るには，通常ABETの認定課程を卒業してから，少なくとも4年の実務経験を経て，州試験に合格しなければならない。

また，教職，研究職に就く際にはさらに上級の学位が必要とされ，職業上の昇進の際も取得が望ましいものになっている。博士号として出されるものは，哲学博士（Ph.D.）が主流で，工学博士（D.E.）はまれである。先に紹介したように，スパーによれば，カリフォルニア大学パークレー校では，どちらかの学位を選べるようにしているが，そこでは約10%しか工学博士を選ばないとい

うように、学生も哲学博士を好むようである。

次に、建築、建設、景観建築、分野について、基準認定団体の名称、学位のレベル、課程の年限、1986年度現在の認定校数、(特記事項)の順に記す。

〔建築〕全米建築基準認定協会、第一専門職学位(建築学士、建築学修士)、学士4年から8年(平均5年、92校。〔建設〕アメリカ建設教育協会(ACCE)、学士、4年(学芸2年、専門2年)、18校。〔景観建築〕アメリカ景観建築協会(ASLA)、第一専門職学位(学士、修士)、学士4～5年、56校。

また、より広いい意味で医学系の専門職分野をみると、医療関連、医療サービス経営、医療補助・検査技師、看護麻酔、看護物理療法、公衆衛生、リハビリテーション、言語・聴力治療、食事療法学の専門職基準認定団体がCOPAに加盟している。

医療関連分野では医療関連教育基準認定委員会(CAHEA)が、25の専門職の基準認定を行っている。

このように、アメリカの学位は専門職との結びつきに十分な注意を払う必要がある。専門職の学位は、学問的な背景を持つ高度な技術、実務能力の修得の証明であって、例えば博士号はその最高位に位置づく。日本語の博士にまつわる博識というニュアンスでみると、とらえきれない面があるのである。

おわりに

アメリカの学位制度は、日本の学位のように国の法規によって裏付けられたものではない。大学の設置あるいは設置認可にあたる州は50あり、それぞれに異なる法規範を持つ。そこに、基準認定協会による認定が複雑にからまっている。大学のあるものは連邦政府、ときには州政府よりも古く、そこに学位にまつわる歴史が始まっている。

こうしたアメリカの学位について、本稿で説明しえたことは現象把握的、初歩的な段階のものでしかない。しかし、こうした初歩的な段階なしには研究の進化はありえないのであり、今しばらくこうした初歩的な努力を続けざるをえない状態にある。初歩的な段階ではあるが、一般に存在するアメリカの学位について認識が誤解、曲解を多く含むものであることを指摘できたとすれば幸いである。

参 考 文 献

- American Council on Education, *American Universities and Colleges*, 1987.
Berkeley, University of California, *General Catalog*, 1991-1992.
California State University Los Angeles (CSU-LA), *General Catalog*, 1983-1984.
College Board, the, *The College Handbook*, 1993.
Council of Graduate Schools, *The Doctor of Philosophy Degrees*, 1990.
Eells, W. C., *Degrees in Higher Education*. New York: The Center for Applied Research in Education, Inc., 1963.
Harvard University, *Facts & Figures*, 1984.

- Harvard & Radcliff, *Information about Harvard and Radcliff*, 1985-1986.
- Levine, A., *Handbook on Undergraduate Curriculum*, San Francisco: Jossey-Bass Publishers, 1978.
- 高等教育研究会編『大学の多様な発展を目指して I —大学審議会答申集』ぎょうせい, 1991年。
- National Center for Education Statistics (NCES), *Digest of Education Statistics*. 1991.
- Spurr, S. H., *Academic Degrees Structures: Innovative Approaches*. New York: McGraw-Hill Book Company, 1970.

Degrees and Fields of Subject Matter in American Higher Education

Akira TACHI*

American and Japanese academic degrees share some similar characteristics. Both the US bachelor and the Japanese *Gakushi* degrees are conferred to those who complete four years of undergraduate coursework. At the graduate level, the US master's and doctoral degrees correspond to the Japanese *Shushi* and *Hakushi* degrees respectively.

The degrees differ widely regarding subject fields, however. This article will attempt to explain classifications of American degrees from the aspect of subject matter.

The Bachelor of Arts (A.B. or B.A.) is awarded in the liberal arts fields. It means the B.A. degree is conferred in mathematics, the natural sciences and the social sciences as well as in the humanities, though the Japanese counterpart, the *Gakushi-Bungaku*, is only awarded in the humanities. The Bachelor of Science (B.S.) degree is mostly granted in the fields of applied sciences (including applied social sciences), though its Japanese counterpart, the *Gakushi-Rigaku*, is only for the pure natural sciences. Other baccalaureate degrees, like the Bachelor of Engineering or the Bachelor of Economics, which are very common in Japan, vary but the number of this type of bachelor's degrees is relatively small in the USA.

There are two types of doctorates: research and professional. The concept of professional degrees is not familiar to most Japanese. The Doctor of Philosophy (Ph.D.) degree is a research degree applied to almost all fields, not just in philosophy. The Doctor of Medicine (M.D.) and the Doctor of Law (J.D.) are examples of professional degrees.

The final part of this article explains that the function of accreditation to guarantee the quality of degrees is important in the USA, because voluntary accreditation is a phenomenon particular in the USA.

*Professor, National Institution for Academic Degrees